2019年度　けやき会総会報告

2019年度のけやき会総会は、埼玉大学大学会館で開催されました。

【概要】
1. 期日：２０１９年６月２９日（土）
2. 日程：　13:30　・記念講演：渡邊欣雄氏
（69年卒・東京都立大学名誉教授）
15:30　・総会（大学会館　３Ｆ）
16:00　・懇親会（第2食堂職員食堂）

【総会】

活動・会計報告、活動計画など全議案が承認されました。
続いて、今回より創設された、けやき会学術奨励賞「けやき賞」が受賞者の井上直美さん、冨塚祐さんへ贈呈されました。
また市橋教養学部長からの挨拶では、学部への寄付金・けやき会寄附講座に対しての謝辞がありました。
役員改選では一部役員の改選が行われ、また常任理事には新たに平野友紀氏（94年現社）が加わりました。

けやき賞授与（左：井上さん、右：冨塚さん）

【懇親会】

今回は大学会館隣接の第2食堂で行われました。
現役学生を含め60名以上が出席。とても賑やかな懇親会となりました。
稲葉雅美氏（92年哲思）の軽妙な司会で楽しく懇談が進み、あっという間の時間でした。
最後は恒例の記念撮影でお開きとなりました。

懇親会終了後の集合写真

■2次会
（北浦和東口　やるき茶屋）
その後北浦和へ移動、コース・世代を超え、様々な職業・立場の同窓生が親しく懇談しました。

第4号議案　　2019年度　　埼玉大学けやき会予算案　　6/30総会時修正、承認済み

（会計期間　2019年4月1日～2020年3月31日）

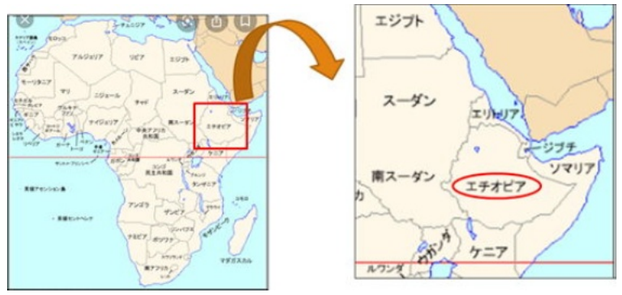
	項目	2019年度	2018年度実績
収入の部	前回繰越金	2,894,990	1,653,142
	入会費・寄付	500,000	548,626
	入学時生涯会費	2,211,630	2,480,110
	利子	11	11
	懇親・2次会	220,000	212,500
	計	5,826,631	4,894,389
	項目	2019年度	2018年度実績
支出の部	HP管理費	103,032	103,032
	会報費	200,000	112,825
	埼玉大学同窓会会費	270,000	263,000
	総会費	850,000	772,354
	懇親会・2次会費	220,000	242,932
	名簿費	8,000	9,758
	会議費	120,000	86,427
	事務費	70,000	78,433
	ミニ同窓会費援助費	50,000	20,000
	学部・学生支援費	200,000	100,000
	寄附講座費	180,432	180,432
	就職活動支援金	30,216	30,216
	ホームカミングデー費	150,000	0
	計	2,451,680	1,999,409
繰越金の部	繰越金（収入−支出）	3,374,951	2,894,980

2019年6月29日　　会計担当 関根増男

承認された予算

【エチオピアについて】

エチオピアという国についてどんなイメージがあるでしょうか？エチオピアは東アフリカの「アフリカの角」と呼ばれる場所に位置しています。



エチオピアの位置

人口は１億９２２万人と日本と同程度、面積は１０９、７万平方キロメートルと日本の３倍程あります。コーヒー、マラソンが有名で、アフリカで唯一独立を保った国であるため独自の文化が残っています。

２００４年から２０１７年までは平均10％という高い経済成長を遂げた経緯がありますが、１人当たりのＧＮＩ（国民総所得）は７９０ドル（２０１８年、世界銀行、１００５ドル以下は低所得国に該当）と、人々の収入は十分とは言えません。

エチオピアの食事

【活動紹介】

エチオピアでは郡政府の水局（市役所の給水課のようなもの）に所属し、手洗い活動、村の給水施設のチェック、ロープポンプの普及、維持管理といった活動をしています。
エチオピアの給水率は58％と、サブサハラアフリカ平均66％を下回っています。村では自然に湧き出た水をそのまま飲んでいるケースも多く、中には虫が混じった水も確認されました。

水中にいた虫

自然に湧き出た水

水汲みに来る女性

■苦労したこと

【ロープポンプの設置】

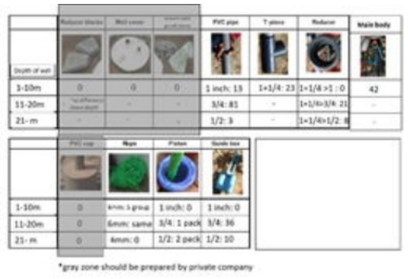
ロープポンプ設置にあたり苦労したのは、水局の同僚との関係作りでした。水局の技術者にロープポンプの部品について尋ねたところ、正しいサイズと個数を把握しておらず、聞くたびに違う答えが返ってきました。
技術者に「この部品は十分あるよ」と言われたので、「本当に？まずは一緒に数えよう」と返すと「なんで僕を信じないんだ」と険悪な雰囲気になることもありました。エチオピア人はプライドが高い人が多く、何度も聞くことで「自分が信用されていない」と受け取ってしまったのかもしれません。

部品の保管所

給水施設の調査

そうした対話や工夫を繰り返し、最終的には30台のロープポンプが設置されました。
このように、ロープポンプの設置を通じてお互いの考え方や事情を理解しあうこと

実際にその部品を数えると５個しかなく、それでも「ほかの場所にある」と譲りませんでした。そこで、「あなたはとても優秀な技術者だし信頼している。ただ、ロープポンプを設置するには正しく部品の個数を把握する必要があるため一緒に確認してほしい」と私の考えを伝えていきました。
そうしたやりとりが２か月ほど続き、ようやく技術者と一緒にすべての部品の確認をすることができました。


部品管理のため作成したチェックリスト

会長あいさつ

けやき会会長　岡田　道程

創立70周年記念式典（ロイヤルパインズホテル浦和）

創立70周年記念シンポジウム

「同窓会を飛躍の年に！」

昨年、２０１９年は埼玉大学にとって特別な年になりました。

まず、元号が平成から令和に変わりました。それとともに、埼玉大学は創立70周年のイベントが立て続けに行われました。その集大成が、11月29日にロイヤルパインズホテル浦和で開催された、シンポジウム・式典・祝賀会だったでしょう。

式典では、山口学長の挨拶に始まり、山脇文部科学審議官、大野埼玉県知事、永田国立大学協会長・筑波大学長から、祝辞が寄せられました。多数の国会議員、協賛企業をはじめ、県内の経済人２４０名の出席は、迫力がありました。

同窓会関係では、10月26日（土）、第９回ホームカミングデーが学内で開催されました。「つなげよう未来へ」というテーマで、国際シンポジウムが行われ、４人の同窓生が壇上に立ちましたが、うち３人が、教養学部と大学院の卒業生で、世界で活躍するけやき会同窓生の勇姿を見せてくれました。

けやき会の活動としては、6月29日に、総会が行われ、それに先立つ講演会では、同窓生の渡邊欣雄氏（東京都立大学名誉教授）による「風水思想と日本」と題する興味深い講演がありました。

ホームカミングデー・国際シンポジウム

我が国における風水思想の起源は古く、7世紀に百済から日本にもたらされ、藤原京、平城京、平安京の立地にまで影響を与えたことが、分かりました。

総会では、学部・大学院で優れた研究成果をあげた学生に対して、新設のけやき会学術奨励賞「けやき賞」が、金５万円を添えて２名に授与されました。

けやき会の役割は、大きく（1）会員相互の親睦を図ることと（2）在学生を支援するなどして母校の発展に寄与すること（けやき会会則）ですが、（1）については、6月の総会・講演会・懇親会と10月のホームカミングデーが、その役割を主に果たしています。

（2）については、けやき会主催の大学寄附講座「経済事情」を立ち上げるなど、学生の教育にも大きく寄与して来ました。履修生となって授業を受講する学生の数は、他学部生を入れて、ゆうに１００人を超えます。

さらに、昨年からは、これまで手薄であった就職活動支援のため、独自に活動していた「就活ゼミ」と提携して、けやき会の別組織とすることで、大きくテコ入れが図れるようになりました。その成果の一つが、2月16日に行われた社会人・卒業生による在学生・就活生のための就職相談会「ＯＢＯＧ交流会」の実施でした。今後とも、さらにパワーアップして、在学生・就活生の要望に応えたいと思っています。

就活ゼミ（OBOG交流会）

私たち、けやき会は、埼玉大学とともに、教養学部とその卒業生とともに、アットホームな同窓会の場所でありたいと常々考えております。

次の８０周年に向けて、これからも期待に応えるべく、日々努力を重ねるつもりです。会員（教員、在学生、卒業生）の皆さまには、温かいご声援とご協力を心からお願い申し上げます。

けやき会の就活応援

同窓会ならではの活動のひとつ、就職活動支援。この一年で大きく展開しています！

卒業生による就職相談会を開催

２０２０年2月16日（日）、けやき会と「就活ゼミ」主催で、卒業生による在学生・就活生のための就職相談会「ＯＢＯＧ交流会」が、教養学部棟3階において行われました。

ＯＢＯＧ交流会

初めての試みでしたが、卒業生・社会人が20数名来てくれました。

実は、12月に行われた就活ゼミで、就活生に聞いたところ、とにかく年度内に開いて欲しいということでしたので、就活ゼミの卒業生が中心になって、打ち合わせを重ね、二ヶ月足らずで実現までこぎ着けることができました。準備に少なくとも一年はかかるところ、文字どおり突貫工事で実現することができました。

参加した卒業生、と言ってもまだ若く、卒業したての二〇代から三〇代半ばまでですが、この日は企業を代表して来ており、学生・就活生との面談を熱心に行っていました。

参加してくれた企業・公共団体は、以下の通り。クボタ、毎日オークション、フジクラ、住友電工、武蔵野銀行、ＮＯＫ、片岡物産、クラウン・パッケージ、国立文化財機構、フジタ、埼玉りそな銀行、ソニーフィナンシャル・ホールディングス、日本精工、フジパン、大学生協、さいたま市など。

当日は、日曜日にもかかわらず、埼玉大学副学長の重原先生、教養学部の野中先生が見学に来てくださいました。昨年より、けやき会の活動に正式に組み込まれた「就活ゼミ」とその成果とも言える卒業生ＯＢＯＧによる就職相談会が、学部や大学からも注目されていると言って良いでしょう。

引き続き、4月12日に、第2回の就職相談会も企画されています。これから、毎年バージョンアップしてゆくためには、ぜひ三〇代～五〇代の卒業生にも加わってもらい、就職相談会、もしくは在学生のＯＢＯＧ訪問の際には、相談に乗っていただきたいと思います。この場を借りて、お願い申し上げます。（岡田　道程）

「就活ゼミ」への協力のお願い

けやき会就活ゼミ
実行委員長　石澤　和也
（国際関係論専攻　２０１０年卒）

初めまして。「就活ゼミ」の石澤と申します。現在「就活ゼミ」では、教養学部生を中心に、全ての埼大生の就活支援（公務員志望・大学院進学・海外留学含む）を実施しています。

活動の概要としては、12月～6月の期間に、月に1～2回ほど、埼玉大学　教養学部棟　33番教室にて、全メンバー２００人以上で活動しております。「就活ゼミ」のこれまでの実績（過去）、今年の取り組み（現在）、今後のビジョン（未来）の3点について簡単に説明させて頂きます。

1これまでの実績

活動期間は今年で9年目となり、この間、90人以上の就活生にアドバイスしてきました。

エントリーシート対策・添削

出身者は、大手自動車会社・クボタ・ヤマト運輸・ＪＴＢ・セイコーエプソン・オートリブ・フジクラ・住友重機械・ＮＯＫ・ニュージェック・国立文化財機構・さいたま市・東京都港区&練馬区などに内定&勤務しております。

「就活ゼミ」のビジョンは以下となります。

◇就活ゼミのビジョン

・毎年卒業する約千人の埼大生が、「のびのび自由」に自分らしさを最大限発揮できるように全面的に支援する（民間就活・公務員・大学院進学・海外留学なんでもOK）

・埼大卒業後も、定期的に集まれるアットホームな「場」を作り、参加メンバー自分自身もどんどん成長する（参加メンバーは、卒業生・埼玉大学全学部&大学院・全学年・他大学全てOK）

・後輩は先輩の支援に感謝し、自身がお世話になった感謝を、下の世代の後輩（同級生の友人も含む）に必ず還元する

共に就活を乗越えた仲間

2今年の取り組み

まず、例年同様に、

①履歴書（エントリーシート）添削

②面接練習（個人面接&集団面接）

③グループディスカッション練習

④社会人のプレゼン&就活アドバイス

⑤OB OGの紹介（１００人以上紹介可能。メリット大）を実施しております。

また、今年初めての取り組みとして、2月16日に第1回目の「ＯＢＯＧ交流会」を開催しました。

社会人&内定者の先輩が20人以上参加し、後輩の就活

就活生の相談にのる先輩

同窓生から

広く各地で活躍する同窓生からのレポート

行徳ふれあい伝承館

峰崎　進
（72年卒・文化人類学）

江戸川が東京湾に注ぎ込む辺り、三角州のような土地に行徳の町がある。かつて行徳は徳川幕府が奨励した塩の産地として、またそれを積み出す湊として栄えた町である。

行徳の河岸は、江戸川を通じて野田、銚子からの味噌・醤油などを日本橋へ運ぶ舟運の拠点であった。江戸期には、芭蕉、一茶、十返舎一九など文人も多く来訪し、また成田山新勝寺の成田講の出発地として大変賑わった。

徳川幕府から塩田の庇護を受け、天領となった行徳は、塩田に携わる者だけでなく、運送業、旅籠などへも潤いをもたらした。それは「行徳千軒、寺百軒」と言われるほどこの狭い地域に多くの寺院や神社が建てられることとなり、木地師、彫師、塗師、仏師などの多くの職人がこの地に居着いた。やがて明治期には、その職人の技（木彫、塗り、金箔、彫金など）を生かし、神輿づくりが始まった。

浅子神輿店製作の富岡八幡宮の神輿

神輿は、明治維新までは、神社の宮神輿だけで町内神輿は存在しなかった。宮神輿は主に宮大工が制作していた。神社の祭りは、山車が主体であり、神輿は隊列を組んでゆっくりと渡御する形であった。廃仏毀釈、王政復古は、寺院の衰退を招き、反対に神事・祭礼の復活でもあった。

行徳の仏師浅子周慶は、そのような時代背景の中で、明治十年、荒川区の素戔雄神社の本社神輿を初めて制作した。明治、大正、昭和、平成を通じて、江戸神輿の数は、四千基ほどで、その内の約二千基が行徳で作られ、その半数が浅子神輿の作といわれる。浅子周慶は、創業五〇〇年ともいわれ、当主は代々浅子周慶を名乗り、神仏具の制作を家業としていた。

特に、十三代浅子周慶（一八五九～一九一一）は、仏師として名を馳せた名工で、成田山新勝寺、中山法華経寺、池上本門寺の御用達仏師であった。明治以後、神輿づくりが盛んになり、浅子周慶は十六代まで続いたが、平成十九年に後継者がなくて、止む無く廃業した。

この浅子神輿の店舗は昭和四年に建てられたもので、桟瓦屋根の切妻二階建の重厚な建物として、平成二十二年に国の有形文化財に登録された。この建物が、昨年七月、行徳の歴史と文化の資料館「行徳ふれあい伝承館」として開館した。

十三代浅子周慶は、私の祖父であり、浅子神輿店は母の生家である。一昨年、この「行徳ふれあい資料館」の設立計画にあたり、市川市から浅子周慶に関する歴史的資料や展示品の収集を依頼された。

短期間であったが、先祖が製作した仏像や神輿を調査し、写真・資料を纏め、何とかオープン日に間に合わすことができた。時間に追われる厳しい作業であったが、この「行徳ふれあい伝承館」の完成は、我が先祖にとっても大いに喜びであろう。

埼玉大学基金へご協力を！

埼玉大学がより一層輝くために

埼玉大学基金は、2019年11月より寄附の目的区分をリニューアルしました。

具体的には、目的区分を

1. 埼大みらい基金
2. 冠奨学金基金
3. 埼玉大学修学サポート基金

とし、さらなる埼玉大学の機能強化、学生支援の充実を図っていきます。

詳細については、埼玉大学ホームページをご覧ください。同窓生の皆さまにおかれましては、是非ともご理解と温かいご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。

↑ホームページ。
または
「埼玉大学基金」
で検索してください。

NEWS あっちこっち

同窓生・大学・いろんなニュースを

埼玉大学創立７０周年記念事

ホームカミングデー

2019年10月26日（土）

教養学部ＯＢが大活躍の国際シンポジウム開催！

10月26日（土）、秋晴れの中、第9回ホームカミングデーが学内で行われました。今年は、ちょうど埼玉大学創立70周年記念事業ということで、特別に国際シンポジウムが企画され、世界で活躍する同窓生の加藤基さん（元ガボン大使）、アミンさん（バングラデシュ工科大学教授）、金京浩さん（ＪＥＴＲＯ北京事務所・中国）、原さつきさん（ＪＩＣＡ青年海外協力隊・エチオピア滞在）をシンポジストに迎え、国際貢献する同窓生の姿に、大きな拍手が起こりました。

中でも加藤さん、金さん、原さんの３人は、教養学部か大学院の卒業生で、より身近に感じられました。

司会も務めた加藤　基さん（埼玉大学フェロー、元ガボン大使／教養学部卒）

国際シンポジウム

懇親会では、本学の創立70周年に合わせて記念品として、埼玉大学同窓会（栩木会長）から山口学長に「埼玉大学70年の歩み」のパネルが贈られるセレモニーがありました。この「70年の歩み」のパネルは、図書館１階のフロア左に置かれていますので、お越しの際には是非、写真と年代記で綴る６メートルの長いパネルをご覧ください。

栩木埼玉大学同窓会長（右側）から山口学長へ創立70年変遷パネル記念品の目録贈呈

全学同窓会から70周年記念で贈られた『70年の歩み』のパネル（図書館に設置）

また、埼玉大学「ホームカミングデー」は、数年前より、毎年、埼玉大学と同窓会の共催で行われています。今年も、講演と懇親会が10月下旬の土曜日に予定されています。同窓生であれば、どなたでも参加することができます。けやき会の皆さまも、ホームページから８月以降申し込めますので、ぜひ多数ご参加ください。

なお、当日は同窓会の基金をもとに完成したインターナショナルレジデンス）のお披露目も、午前中に行われました。埼玉大学が、５００人を超える外国人留学生を迎え、ますます国際化している姿を実感しました。

歓迎会・懇親会の司会を担当した放送研究会の宮本日向子さん（日本・アジア文化専修）

2020年のホームカミングデーは
10月31日（土）〈予定〉
お待ちしています！
※日程は予定です。
日程および催しの詳細は埼玉大学または、けやき会のホームページをご覧ください。

埼玉大学インターナショナルレジデンス完成

留学生・日本人学生混住型！

埼玉大学が創立70周年記念の特定重点事業として建設を進めていた、留学生・日本人学生混住型のインターナショナルレジデンスの工事が完了、10月26日（土）に完成披露会を開催しました。

披露会当日は天候にも恵まれ、埼玉大学基金にご寄附をいただいた方々や関係機関及び学内関係者、約60名の臨席のもと盛会に行われました。

完成披露会・テープカット

けやき会学生顕彰
第一回けやき賞

特別優秀な在学生を称え、その研究活動を後押しすべく昨年より創設された『けやき賞』その第一回は、冨塚祐さん、井上直美さんが受賞されました。お二人のメッセージを紹介します。

埼玉大学という積極的な選択

埼玉大学大学院
人文社会科学研究科
文化環境専攻博士前期課程1年
冨塚　祐

2018年度教養学部
ヨーロッパ・アメリカ文化専修
ヨーロッパ文化専攻卒業

この度新設されたけやき賞の第1回受賞者に選出いただきました。改めてけやき会の皆様と、ご推薦していただいた教養学部の諸先生方に感謝申し上げます。

私の専攻は、19世紀末から20世紀初頭のドイツ語圏のユダヤ史、その中でも特にシオニズムと呼ばれる、ユダヤ人によるナショナリズム運動です。

2019年現在、埼玉大学にユダヤ史を専門にされている先生はいらっしゃいません。それでも、卒業研究や大学院入学後の研究は、自分の関心に応じて自由に進めることができる。この点が埼玉大学教養学部／大学院人文社会科学研究科の魅力ではないでしょうか。そういった場合、大学の外に出て自身の専攻に関する議論が交わされる学会等に参加する必要性がおのずと大きくなりますが、首都圏と近いゆえ、それほど苦にはなりません。

あるいは学内で開講される、専攻と内容が少なからず離れた授業や議論に触れる機会が増えます。しかし、そうした分野においても自身の関心と照らし合わせつつ提示される問題を考えることは、それはそれで重要なトレーニングとも言えます。幅広い領域に触れることそのものも自身の研究に深みを与えてくれることでしょう。物理的な首都圏との近さと、首都圏の喧騒を感じずのびのびと研究を進めることができるという雰囲気といった意味での遠さの共存が埼玉大学の魅力であると感じられます。

また、授業や研究指導が少人数で行われることも魅力のひとつと言えます。専門科目のみならず語学などのひとりでは進めにくい勉強も、学生のレベルや疑問を的確に見抜いてくださる先生方の丁寧な指導を受けることによって着実に進めることができます。研究指導に関しても、先生方のご専門と自身の関心が近くなくとも示唆に富むコメントをいただくことも多く、これも少人数で指導が行われることが多いゆえでしょう。

こうした事情から、私は大学院進学時に教養学部から人文社会科学研究科へと進む形で、埼玉大学に残ることを選びました。

埼玉大学教養学部は、大学受験や予備校の世界では「中堅」として評価されることが多いように思われます。正直、学生からは「所詮埼玉大学だから」という声も聞こえないわけではありません。ですが、偏差値を基準にした、大学入学時の「頭の良さ」を、入学後もずっと引きずる必要はないでしょう。埼玉大学には埼玉大学の、教養学部には教養学部の魅力があることは確かです。そうした環境をどのように使いどのように育つかは学生次第です。「所詮埼玉大学だから」と斜に構える必要はなく、考えるべきは埼玉大学での時間をどのように過ごすかであるように思われます。すんで埼玉大学を選ぶ、という選択肢はもっと声を大にして言ってよいと考えています。

教養学部と私

埼玉大学大学院
人文社会科学研究科
博士前期課程
国際日本アジア専攻　1年
井上　直美

2017年4月、私はある種の覚悟をしてこの埼玉大学教養学部に3年次編入した。それは、私が小学生2人を抱える母であり，社会人学生であるため、孤独な2年間になるだろうという覚悟であった。

自分が学び直したい「日本語学」、「日本語教育学」に没頭すればよい、そしてそれを日本語教育の現場に戻って生かせればよい、そのように考えていた。

しかし、その覚悟はすぐに無用のものとなった。在学生たちは、毎年、春になると教室に見慣れない姿が増えることを知っていて、「ああ、編入生なんだな」

とごく自然な雰囲気でそれとなく色々教えてくれた。そして、新入生オリエンテーションで同じように編入する仲間と出会えたこと、少人数の演習、講義などで世代、国籍、専門を超えてたくさんの仲間に恵まれたことも大きかった。

日が経つにつれ、顔見知りも増え、教室でも「隣、いいですか」と声をかけてもらったり、卒論の話、就活の苦労話、部活やサークルの話を聞いたりと、自分では思ってもみなかった第2の学生生活となっていった。

少し慣れてきた3年前期のある日、こんなことがあった。2限の授業後、私は机の横に小さなサブバックを掛けたまま次の授業に向かってしまった。すると、それに気が付いた男子学生が周りの学生たちにも声をかけて、私の履修している次の科目の教室を突き止め、わざわざ届けてくれたのだ。その時は、皆に受け入れてもらえた気がして、非常に嬉しく、ありがたかったのを覚えている。

このようなエピソードは1つだけではなく、まさに様々な方の支えがあっての2年間であった。教養学部のこの多様性を認める風土は、私のような社会人学生には特に身に染みて強く感じられる。

中にいると当たり前のように感じるが、そうではないだろう。長い時間をかけて、先生方、先輩方が築いてきてくださったものが、こうして脈々と受け継がれているのである。先生方との距離も近く、丁寧かつ熱心なご指導を賜り、この教養学部に身を置くことができたことに、心から感謝している。

そして、この環境ならばと、今春より人文社会科学研究科に進学し、研究を続けることにした。6月のけやき会総会では，第1回の学生顕彰「けやき賞」を授与していただいた。身に余る光栄であり、けやき会の皆様、先生方、お世話になった全ての方に御礼を申し上げたい。

大学院では、主に現代日本語の補助動詞（「～しておく」等）の研究に取り組んでいる。「日本語能力試験N1レベル（最上位レベル）」をクリアした日本語学習者向けの、教科書では教えてもらえなかった学習ポイントに着目し、それをわかりやすく提示できるように分析・記述することを目指す日々である。この落ち着いた環境で、これからも世代、国籍を超えて、仲間と切磋琢磨しながら研究に励んでいきたい。

古本募金で母校の応援

埼玉大学古本募金は、古本（DVDもOK）を送っていただき、その査定額を埼玉大学基金に寄付する取り組み。5点以上は送料無料。

詳しくは「埼玉大学　古本募金」で検索してみてください。

古本募金はこちら。←

現役生から
在学中の後輩からのホットな報告！

祖父の万年筆

日本・アジア文化専修課程
日本文化専攻
宮本　日向子

ホームカミングデーにてお声がけいただき、拙文を掲載していただくことになった。やはりまだ学部生だし、学生生活に絡めた事を書こうか、と思案していたものの、なかなか筆が進まずにいた。ふと、握っていた万年筆が目に留まった。1995年製の、月の光をイメージした塗装の万年筆。キャップには、3年前に亡くなった母方の祖父の名が刻まれている。祖父について書こう、と思い立った。

幼いころから、家が近かったこともあり、私と妹はよく祖父母に会いに行った。よく甘やかしてくれたので、祖父母を訪ねるのが大好きだった。当時の私は、一言で言うと変わり者だった。

歴史に興味を持ったのが、小学二年生の時。小学四年生の読書感想文を夏目漱石で書いた。基本的に同級生とはそういう話はしなかったし、そういう自分にちょっとした的外れな矜持を持っていたものだから、余計に話し相手はいなかった。

両親や級友、学校の先生は褒めこそしてくれたが、歴史や文学にはてんで興味がなかったから、物足りなかった。なんなら「この本はまだあなたには早い。もっと小学生らしい本を読みなさい。」と咎められることもあった。祖父はそんな私を咎めるどころか、寧ろ褒めちぎって、「これも読んでみろ」、と三島由紀夫の本なんかを贈ってくれたりした。

褒めてくれる人がいるなら読む甲斐がある。語ってくれる相手がいるなら学ぶ楽しみもある。ただ「難しい本」を読んだことや、知識があることを褒めてくれ